高橋政一（たかはし まさいち）
（市民クラブ）

- 活動場所が移設される適応指導教室フロンティア奥州の活動はどうなるのか
- 修学旅行、遠足等の勤務時間の割り振りは実施されているか

質問 奥州市勤労青少年ホームで開催されている適応指導教室フロンティア奥州が移設されると聞いている。子どもたちや保護者、指導員が心配しているが、今後の活動場所と活動内容はどうなるか。

市長 今年9月ごろまでに活動場所を別のところに移設することにしている。移設はするものの、義務教育段階を終えた若者の交流の場、社会的な自立を支援する有意義な場となっていることから、今後も教育委員会と連携をはかり支援していきたい。

教育委員長 フロンティア奥州に昨年度は11名が通級し、今年度は4名が通級している。学校に再登校した時に普通学級の学習に取り組めるよう、教科学習の個別指導に力を入れ、勤労青少年ホームを使った体験的活動もしている。昨年度は7名が再登校し中学3年生6人全員が高校等に進学した。移設先は今後も多様な活動ができ児童生徒が通級しやすい施設を考えていく。

フロンティア奥州

質問 修学旅行、遠足で超過勤務した教職員の勤務時間の割り振りは行われているか。

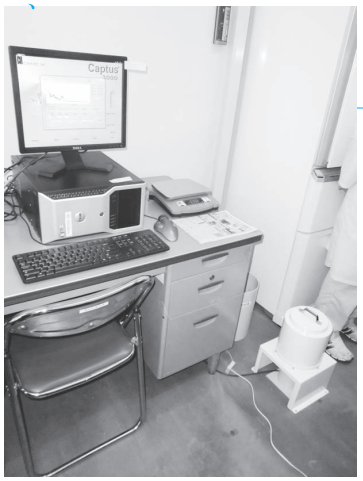
教育委員長 これまで奥州市を含む全県で充分勤務時間の割り振りが行われてこなかった経緯がある。県教委の通知により平成24年度から割り振りが明確にできるようになったが、通知が年度末に出て修学旅行が年度初めであったことから、各学校に徹底できなかった。割り振りできなかったところは学校の状況に応じて弾力的に対応する。

佐藤邦夫（さとう くにお）
（市民クラブ）

- 山菜の出荷自粛による産直への影響
- 奥州市の教育の考え方

質問 岩手県は奥州市の山菜、ワラビ、ぜんまい、タケノコ、野生蕗、セリ等が集荷規制、自粛という処置が取られた。各産直は販売する山菜を自ら放射能セシウムの検査をし、50ベクレル以下の数値を確認の上販売している。江刺ふるさと市場でもわらび、蕗等は20ベクレル以下不検出でしたが、市内一部で100ベクレルを超えた検査結果であったため、奥州市全体が出荷規制の網を掛けられた。そのため山菜を主に産直で生計を立てている人を中心に、多大な損害を被っている。少なくても奥州市の旧市町村単位での規制、自粛にしてほしいと思うが出来ないかどうか、また山菜は産直の「売り」になっている物で、出荷規制で産直施設全体としても大きな打撃を受けている。生産者、産直施設への東電への損害賠償を要求したいと思うが指導してほしい。

市長 山菜はどこで採取されるか特定できないので、市内一部で基準を超える数値が検出されると、全体で規制せざるを得ない。安全、安心を守るために気持ちは分かるがご理解を頂きたい。損害賠償については産直関係者と東電との話し合いの日程を詰めている。


給食食材・農産物等の放射性物質調査機器

質問 新教育委員長は奥州市の教育をどのようにしたいのか、しようとしているのか考え方をお聞きしたい。私はスティーブン・R・コヴィー博士の「7つの習慣」に書かれているように、動機付け、習慣づけをすれば黙っていても勉強、学習すると思うので、是非学校教育に取り入れて欲しいと思うが。

教育委員長 学力向上・不登校対策・就学前教育の3つを柱に力を入れて頑張りたい。「7つの習慣」はまだ読んでいないが研究したい。